

授業科目	遺伝看護学				単位	1		
履修	選択	関連資格			ナンバリング	NU31502J		
開講年次	4年	開講時期	後期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP4-2			
担当教員	笹月 桃子							
授業概要	<p>現代の医療において、がん遺伝子検査・出生前診断・神経難病の診断検査などは、患者・家族のその後の治療方針だけでなく人生を左右する重要要因です。本科目では、進展する遺伝医療の中で看護師としての役割を果たすために必要な人類遺伝学や遺伝子診断・治療に関する知識、遺伝医療に伴う倫理的・法的・社会的問題、社会福祉に関する情報について解説します。さらに、先天性疾患・遺伝性疾患患者とその家族、その他の遺伝医療の対象者への援助方法について共に考えます。最低限必要な生物学的知識を整理する講義も行います。本科目を開講している大学は少なく、貴重な学びの機会になります。意欲的な参加に期待します。</p> <p>本講義は、実務家教員として、全国レベルで遺伝カウンセラー・遺伝看護専門看護師として活躍されている2名の外部講師と、20年以上高次医療機関において小児医療に従事した医師の3名のオムニバス式で講義をします。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<p>1. 遺伝的な課題を持つ人々に対する看護アセスメントの視点を説明できる。【2-1】</p> <p>2. おもな遺伝性疾患の遺伝形式を理解し、クライアントが抱える課題と必要なケアを説明できる。【1-2, 4-2】</p>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	100	0	0	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)			20				20	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			40				40	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)								
態度 (DP4-2)			40				40	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
遺伝学の基本的な知識を身に付け、それを人に説明することができる。医療・障がい分野で遺伝的な課題をもつ人について、具体的な課題と必要なケア、具体的なアプローチについて考えを説明できる。				<p>1. 遺伝的な課題を持つ人々に対する看護アセスメントの視点を説明できる。【2-1】</p> <p>2. おもな遺伝性疾患の遺伝形式を理解し、クライアントが抱える課題と必要なケアを説明できる。【1-2, 4-2】</p>				
授業計画								

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	テーマ:1. 看護に必要な遺伝学の知識(1) 染色体とDNA, 遺伝形式, 遺伝子病 (笹月)	講義	高等学校 生物の「遺伝」に関する知識の復習	60
2	テーマ:1. 看護に必要な遺伝学の知識(2) 染色体異常, 先天奇形, 遺伝子診断 (笹月)	講義	高等学校 生物の「遺伝」に関する知識の復習	60
3	テーマ:2. 遺伝医療の中での看護職の役割 (外部講師)	講義	復習:該当部分の復習	60
4	テーマ:3. 出生前診断, 先天奇形と看護 (外部講師)	講義	復習:該当部分の復習	60
5	テーマ:4. 染色体異常と看護(1) (外部講師) 染色体異常の原因と診断	講義	復習:該当部分の復習	60
6	テーマ:4. 染色体異常と看護(2) (外部講師) 染色体異常の診断の意義と支援の在り方	講義	復習:該当部分の復習	60
7	テーマ:5. がん・遅発性遺伝疾患と看護 (外部講師)	講義	復習:該当部分の復習	60
8	テーマ:6. 遺伝医療サービスと倫理的・法的・社会的問題への対応 (笹月)	講義	予習:日本看護協会「看護師の倫理綱領」を精読	60
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				

22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	遺伝医療を理解するために最低限必要な生物の知識については、初回の講義において解説します。臨床場面の話題も多く、生物を履修していない学生にとっても十分に理解し、興味持てる内容です。			
テキスト	講義内で適宜資料配布。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・福嶋義光監修：遺伝医学やさしい系統講義 18講 日本人類遺伝学会第55回大会事務局、メディカル・サイエンス・インターナショナル 2016 ・安藤広子,塚原正人,溝口満子編：遺伝看護 第2版,医歯薬出版,2013. ・デリー・H. リー 著, 清水淑子 監修, 日本遺伝看護研究会 訳：遺伝看護の実際；事例からのアプローチ, 日本看護協会出版会, 2001. 			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	「遺伝看護」とは比較的新しい領域です。ヒトゲノムの全塩基配列が解読され、遺伝子の機能解析からタンパク質の機能解析へと進み、個人の遺伝情報をもとにした健康増進、病気の診断・治療が行われ、患者に寄り添う看護師に期待される役割も大きくなっています。世界の遺伝研究機関や遺伝検査会社、専門団体や大学のホームページから発信される様々な遺伝情報を得ることができます。			
達成度評価に関するコメント	全講義を終えて学んだこと、看護職の役割として考えることについて、レポートにまとめます。その内容をもとに評価します。			